

熱中症の予防をターゲットとした 高齢者見守りシステム

理工学部
機械工学科
教授

榎 泰輔



研究シーズの紹介

背景：高齢者が夏期に熱中症で倒れる事例が後を絶たない。現状の熱中症の見守りが自治体からの呼びかけや放送・訪問・電話等であり、対象者の状況に関わらず画一的で一方向的。このため、せっかくの呼びかけが届かない、わかりにくいことになり、高齢者の行動が変わりにくい。

解決手段：新たな伝達手段（アバター）と臨床心理学の知見をもとに、①人を知る＝高齢者の住環境情報、身体面・心理面のモニタ、②つながる＝リスク判定・介入で身体・心理状態から判定し行動変容を促す、③寄り添う＝改善と予測技術で行動返答結果から改善案を抽出、の技術を開発した。

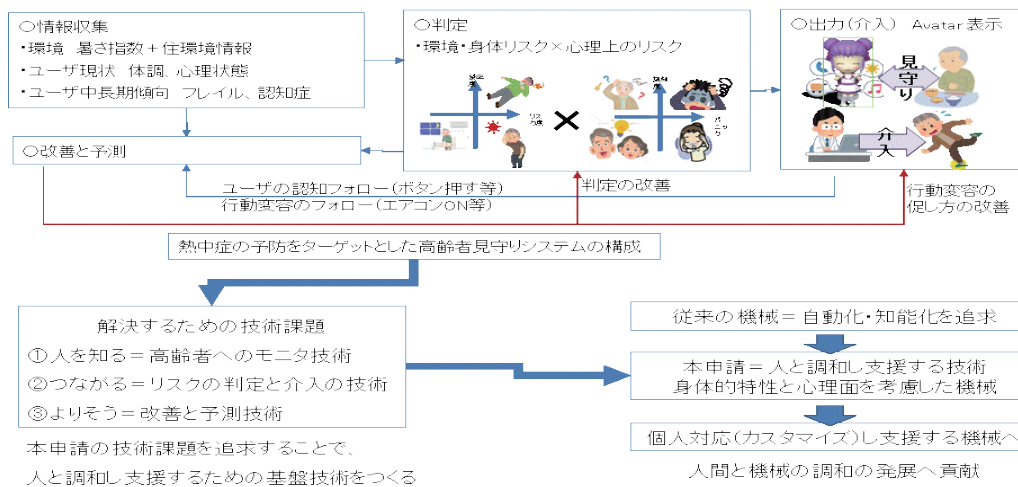
臨床心理学専門家窪田由紀氏、
有限会社BOND社と共同、SmartAvatar®を応用



高齢者見守り技術

- 人を知る＝高齢者の特性を踏まえた計測技術
- 人とつながる＝リスクをわかりやすく表現、伝える技術
- 人に寄り添う＝行動変容結果をもとに上記を改善する技術

研究課題名：熱中症の予防をターゲットとした高齢者見守りシステムの研究

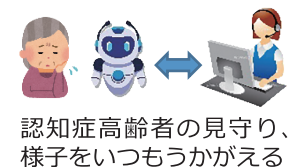


期待される活用シーン

- 遠隔地にいる高齢の家族を安心して見守りたい(家族の願い)



遠隔であっても夏場の熱中症を防ぐことで安全安心に生活できる



- 高齢であっても、何らかの仕事を通じて、社会で力になりたい



高齢者の能力を適切に支援し、企業の戦力として能力を発揮できる



その他の研究テーマ

・有限会社BOND社と共同で、同社のアプリSmartAvatar®を応用し、冬期の高齢者見守り、とくにヒートショック(浴槽での溺死) 予防のシステムを開発中。